

越冬後のイチゴの管理

あなたも「チャーム」シリーズ！家庭菜園



キリトリ線

板木技術士事務所 ● 板木利隆

秋に植え付けた露地栽培のイチゴは、冬の本格的な寒さの下で体を縮めて休眠状態に入っていました。厳寒期を過ぎるころ（関東以西の平たん地では2月上旬）から、にわかには新葉が勢いづいてきます。

越冬後の管理方法

① 管理

株元付近の枯れかかった葉を、付け根からかき取り、きれいに整理してください。また畑が乾いていたらたっぷり灌水（かんすい）しましょう。

② 追肥

畝の肩に化成肥料と油かすを1株当たり各小さじ1杯ほど施し、通路の土をかぶせ畝の形を整えておきます。

注意 イチゴの根は肥当たりしやすいので、株のすぐ近くに肥料をまいたり、肥料を大きく耕し込み、根を傷めないようにしてください。

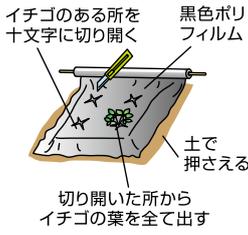
③ マルチ・トンネルかけ

追肥した後で、図のように黒色のポリエチレンフィルムをマルチをします。マルチングすることにより、これから開花、肥大してくる果実に、雨で土が跳ね上がるのを防ぐとともに、地温上昇を図り、雑草を抑止し、さらに地面からの水分蒸発を抑えて乾燥を防ぎ、肥料の流亡や土の固結を防ぐなど、さまざまな効果が期待できるのです。

マルチの手順としては、育っているイチゴの上にフィルムを覆い、風で飛ばされないように、周囲の裾に土を掛け足で踏みつけておきます。そして、イチゴ



肥料をばらまいた上に土を掛ける



イチゴのある所を十文字に切り開く
黒色ポリフィルム
土で押さえる
切り開いた所からイチゴの葉を全て出す

の株で盛り上がっている位置のフィルムに、刃物で切り目を入れ、イチゴの葉を傷めないように丁寧に、全ての葉をフィルム上に出してやります。株元が大きく破れたらその部分を土で押さえておきます。また株間に一握りの土を置き、風によるばたつきを防ぐようにしましょう。

この他に、イチゴの収穫時期を早めたい場合には、同時に市販の骨材を立て、フィルムをトンネル状に覆ってやります。これにより収穫を約20日ほど早めることが可能です。トンネルの裾には土を掛け風で飛ばされないようにしておきます。が、日中の気温が30度以上に上がらないよう、頂部に穴を開けるか、所々裾を上げて換気することを忘れないでください。

注意 マルチもそうですが、このトンネルかけも、あまり早く行い過ぎると、咲いた花が低温に遭い、黒変枯死してしまうので、適期を守ることが大切です。

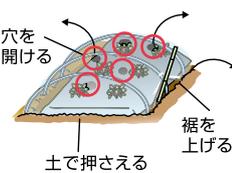
④ 病虫害駆除

イチゴが春を感じ、盛んに伸び始めてくるとナミハダニやアブラムシ、アザミウマ、輪斑病、じゃのめ病などの病虫害が発生しやすくなるので、早めに適応薬剤を正しい使用方法で散布して被害を防ぎましょう。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。



薬剤散布は葉の裏からも丁寧に



穴を開ける
裾を上げる
土で押さえる

農業機械の最新技術④

家庭菜園にぴったりの「クボタミニ耕うん機」※30坪程度の畑に最適

ガス式



ニューフロント菜ピカチット FTR3500-C 1.9馬力

家庭用カセットガスをセットするだけで動かせます！

1本当たりの連続運転時間 約30分
※使用温度範囲は10～40℃

電動式



ニューミディ菜レント TME20 600W

家庭で充電できるミニ耕うん機。運転音がとても静かなので住宅地でも気兼ねなく使えます！

フル充電時の連続運転時間 約60分
※充電時間約7時間

ガソリン式



ミディ Style TMS30-M5TUE3 2.7馬力

硬い畑や広めの畑でも力強く耕せるコンパクト機。2.7馬力のパワフルエンジンで初心者にも簡単です。ガソリン満タン時の連続運転時間 約90分



あなたの菜園にぴったりの一台があります！お気軽にご相談ください。

農機センター 佐藤 哲治

お問い合わせは 農機センターまで ☎ 0120-927-327